

通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議 第 6 回 意見概要

- 非常に多様な生徒が在籍する中で、当初設計された通信制課程と、今ある通信制課程とは全く別物と考えるべき。その上で、通信制課程に対する、教員配置を含めた人的な支援の在り方については、今後の検討が必要な論点として記載すべきではないか。
- 先導的な事例の創出・共有を図っていくという方針に賛成するとともに、それに加えて、そこでの成果を次回の学習指導要領改訂や様々な法令改正等にも資するものとしていくことが重要ではないか。
- 1つの問いに対して1つの答えに近づくことだけではなく、変化が激しい時代において、自分は何を学びたいのか、自分は何を学んだのか、今どう思っているのか、といったパーソナルな視点を学びに取り入れていくことも必要ではないか。
- 全日制・定時制・通信制といった「課程」をどう捉えるかが今後重要となってくるものと考えられる。今一度整理することが必要ではないか。
- 私立の通信制高校の問題点を洗い出しながら、そこを改善していくという観点からは、所轄庁と私立学校との関係性にも改めて言及する必要があるのではないか。
- 高校卒業後の社会へと接続させていくためには、今までの教員が持っているスキルや経験だけでなく、専門的なノウハウを持っている人材を配置するようなことも考えていくべきではないか。
- 通信制ならではの長を生かした教育活動に取り組む中で、生徒一人一人が色々な思いの中で探究活動に取り組んでいけるような仕組みができることが望ましいと感じる。
- 資質・能力の三つの柱、観点別学習状況評価、形成的評価、キャリア教育など、全日制でも通信制でも同じことが必要だということを具体的に示すことが必要と感じる。その上で、具体的に通信制課程ではどのようにやっていけるのかを、みんなで研究しながら進めていくという姿勢が大切だと感じる。
- 全日制と同じように教育の中身を高めていくためには、私立の通信制高校に対しても、全日制と同水準の補助を行っていただきたい。
- 生徒一人一人にきめ細かく対応していくことが求められる中では、教員だけではなく、様々な職種の方がチームとして、生徒をサポートできるような体制を構築していけるよう、支援していくことが必要ではないか。
- 教員が学習評価をバランスよく行えるようにするためには、教員の資質向上を図っていくことも重要ではないか。
- 生徒のコミュニティが必要であるとともに、教師もコミュニティが必要であり、教師教育という視点からすれば、通信制課程での経験は教師が伸びるための一つのきっかけになり得るのではないかと感じる。

- 通信制課程には多様な生徒が在籍する中で、画一的な学びから多様な学びへと、視点の転換を図っていくことが必要。今回のコロナ禍での経験からも分かったように、通信制課程だからオンラインでいいということではなく、むしろ通信制課程だからこそその寄り添い方があるはずであり、そこに教育の本質があると感じている。
- 4年半前のウィッツ青山学園高等学校の事案がきっかけで、これまで通信制課程に様々なスポットがあたり、色々な形で通信制課程も変わってきていると感じる。一方で、今でも学校運営や教育活動等において課題がある学校がいくつかあると聞いている。今回の審議まとめがそうした学校に届き、そこで学ぶ生徒が少なくとも4年半前に戻るような実態はなくてして、通信制教育を発展させていくことにつながればと切に願っている。

※上記内容は、委員の了解を取っておらず、事務局がまとめたものである。